

9月市議会報告

No.180 2016年 秋季号

日本共産党鎌ヶ谷市議団

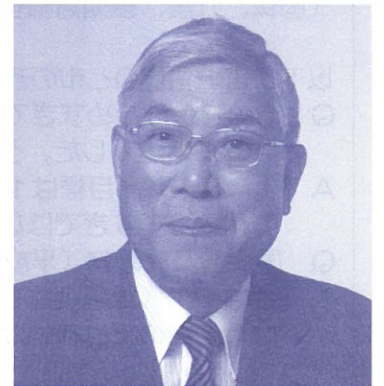


宮城 とみ子議員

2016年(平成28年)9月定例議会

平成28年9月議会は、前年度の予算がきちんと執行されたかどうかをチェックする「決算議会」でもあります。

私たち日本共産党市議団は市民目線で、一つ一つの予算の使われ方をチェックするとともに、国民健康保険・介護保険など、各特別会計補正予算のように、一度一般会計から繰り出した予算を余ったからと元に戻すのではなく、加入者の負担を軽減するために使うべきだと強く主張しました。



佐竹 知之議員

一 般 質 問 要 旨

【宮城 登美子議員】

木造住宅の耐震化促進を

鎌ヶ谷市の耐震化の現状は民間住宅ではまだ30%しか済んでおらず、約9000棟も残っているという答弁でした。

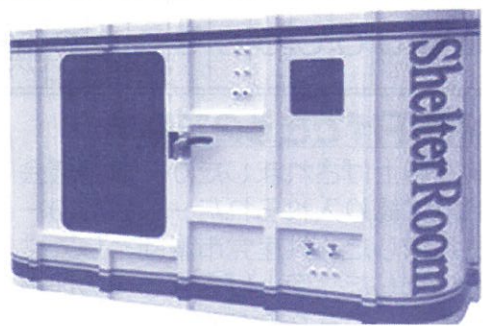
耐震化がなかなか進んでいない原因として、耐震化工事費は約200万～300万円もかかり、(市の補助額は上限で60万円)市民にとっては多額の負担を要するためです。

そこで私は、2つの提案をしました。

一つは、バリアフリー工事などができるような住宅リフォームの助成、もう一つは、耐震シェルターなどの助成です。

市はいずれも、調査研究をしていくと答えました。

「人命を守ること」が耐震化の最大の目的です。せめて自力では避難困難な重度の寝たきりの方々(約25人)への助成を、と要求しました。



〈写真は耐震シェルターの一例〉

防災ベッドや耐震シェルターは、地震で家屋が倒壊しても安心、数十万円という比較的安価で工期も短く、簡易に命を守る最小限の対策として有効です。

生活保護費削減などの影響とその対応を

平成25年度から平成27年度までの3年間に生活扶助、住宅扶助、冬季加算など生活保護基準の引き下げが行われました。

「本当に厳しい。月末になると、特にどうやって食べていこうかと悩んでいます」とか「死ぬことばかり毎日考えています。何の余裕もありませんよ」など深刻な声があがっています。

生活保護基準は住民税の非課税基準であったり、国民健康保険の減免、就学援助の適用基準など多くの制度と連動しているという点で、この切り下げの問題は受給している方々だけの問題では決してなく、国民全体にかかわる大きな問題です。

無料低額診療という、低所得者などに医療機関が低額な料金で診療を行う事業についても周知し、医療が受けられないで重症化することのないよう要望しました。

【佐竹 知之 議員】

がん検診の強化で、がん撲滅先進市に

厚労省の資料で1971年以後、日本では死因のトップが「がん」で年間30万人が亡くなっているそうです。2人に1人が「がん」にかかり、3人に1人が亡くなると言われています。こうした現状の中で「がん検診」は極めて大事な一大事業です。今回の質問で明らかになったことは、政府の「指針改定」で50歳以上の方には、がん発見に有力な内視鏡検査も選択肢となりましたが、鎌ヶ谷市では、内視鏡検査ができる医療機関・スタッフなど受け入れ枠が足りず現状では実施が難しいとのこと。私は、医師会や医療機関に働きかけて内視鏡検査の出来る検診体制を求めました。

保育士確保のため市にも「人材バンク」設立を

保育士さんを確保する事業について、私は市に、保育士さんを確保する市独自の「人材バンク」を設立してはどうかと提案しましたが、市の回答は、県の委託を受けた「ちば保育士・保育所支援センター」に求人情報を登録してあり、「千葉県の仕事」として考えているとの回答でした。こんな人まかせで本当に人材確保はできるのか心配になりました。



「コミセン」は、なるべく制約かけず使用させよ

コミュニティセンター(コミセン)の使用に関して団体名簿の提出や、使用当日の参加者名簿の提出など、市民から「なぜ?」との疑問が寄せられています。質問に対して、団体名簿提出は市民が優先して使うため、市外在住者が5割を超えないようチェックしているので義務とし、当日の参加者名簿提出は義務ではなく災害に備えるため「出来る範囲の協力でよい」とのことでした。提出された名簿の保管についても確認しました。

平成27年度の決算…貧困対策強化を(宮城議員)

平成27年度の決算を審査する特別委員会が開かれました。委員として、1年間の税金の使われ方が適切だったか、真剣に審議しました。貧困が広がる中で、特に子供の貧困に対して、不十分な決算だったことや、年金、介護、生活保護など社会保障費削減と制度改悪を進める国の悪政から市民を守る執行ではなかった点を指摘して決算に反対しました。反対は、一般会計、特別会計(国保、介護、後期高齢者の3つ)。

以下、宮城質問Qと市の答弁Aの一部です。

- Q 市の貯金はためすぎているか?【市の貯金(基金残高)は57億円でした。うち財政調整基金は29億円です】
- A 「年度末残高目標は18億円と設定している。だから決して積み立てすぎではない」
- Q 国民健康保険料(平成28年度から値上げしたけど)の繰越金は…?(繰越金は3億8千万円で、この一部活用で値下げは可能なのではないかと主張しましたが…)

- A 「加入世帯の75.29%が所得200万円以下。(うち、100万円以下が53%)。滞納世帯数2707世帯。生活困窮が原因だ」
- Q 親が一時立て替えをしている実態があるが、就学援助費は必要な時に前もって支払われるようにすべきだが?
- A 「新入学学用品費など保護者に立て替えてもらっている。今後、検討する」
- Q 市税の差し押さえ状況は?
- A 「不動産102件、預金640件、給与70件、国税還付金など119件。合計931件。年々増えている」
- Q 市の職員中、非正規の占める割合が一番多い部署はどこか?
- A (非常勤職員907名中)
「保育士などが114名、放課後児童クラブ支援員が104名、保健師、看護師などが114名」



9月議会の案件は、主に平成27年度の決算と28年度の補正予算です。日本共産党市議団は議会に提出された15件の議案のうち、7件に賛成しました。市民団体や一般市民からの請願・陳情はありませんでした。

9月議会に提案された主な議案の内容 (○は原案に賛成、×は反対)	党派		議員名													議決の結果													
	会派	日本共産党	宮城とみ子	佐竹知之	大野幸一	土屋裕彦	原八郎	泉川洋二	勝又勝美	芝田裕宏	森谷武人	松澤武人	小泉巖	石神市太郎	野上陽子		中村潤一	池ヶ谷富士夫	佐藤誠	川原千加子	小易和彦	矢崎悟	津久井清氏	針貝和幸	三橋一郎	大内一也	岩波初美		
議案3・4・6・7号 平成28年度一般会計及び、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療特別会計補正予算			×	×	○	○	議長のため裁決には加わらず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案8・9・11・12号 一般会計、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療の各特別会計歳入・歳出決算の認定について			×	×	○	○	議長のため裁決には加わらず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第14号 水槽付消防ポンプ自動車購入について			○	○	○	○	議長のため裁決には加わらず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第15号 鎌ヶ谷市・市道路線の認定及び廃止について			○	○	○	○	議長のため裁決には加わらず	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

コミバス「ききょう号」増便11月から実施

多くの市民のみなさんから出されていたコミュニティバス“ききょう号”の運行に対するご要望が11月1日から実現されることになりました。
日本共産党議員も、くり返し粘り強く議会などで市に要望してきました。
これら市民の強い要望を受け検討を重ねてきた結果、ようやく、11月1日から土・日曜・祝日の運行と時間延長を含む増便が実現します。

主な改正点は下記のとおりです。

- 時間どおり運行するために路線を分割し増便する。
- 新規のバス停留所を新設する。
- 土・日曜・祝日の運行(ルートによって1日4~5便)
- ICカードや回数券での支払いがルートによっては可能に
- 運賃は中学生以上100円、小学生や障がい者は50円

国民健康保険料は値下げできるのでは?

平成28年度からの保険料が値上げされましたが、9月議会の補正予算案で国保特別会計に繰り入れられた一般会計の一部を元に戻す内容の案が出されました。共産党市議団としては、以下の理由で反対し討論を行いました。値上げをする市の理由としては「一般会計から繰り入れしてもなお2億円不足だ。1億円は一般会計から繰り入れ(補てん)し残りの1億円は被保険者である国保加入者に負担してもらおう」と言うことでした。しかし、補正案では2億円余を戻す措置になっています。一度、国保特別会計に入れて、余ったから一般会計に戻す、しかし“値上げは撤回しない”という市の考えは疑問です。

生活・法律相談会(相談無料)

毎月・第一金曜日 午後2時~

- ご希望の方は予約が必要です。ご連絡ください【連絡先電話&FAX】



○宮城とみ子 080-5002-3797
○佐竹知之 090-9135-7421
日本共産党松戸・鎌ヶ谷地区委員会
☎ 047-349-1544
FAX 047-349-2293